

インフルエンザの予防接種を受ける方へ（説明書）

～よく読んでから予診票を記入しましょう～

1. インフルエンザとは

インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。

インフルエンザの症状は、**突然の高熱・頭痛・関節痛・筋肉痛**などで、のどの痛み・咳・鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。特に高齢者のインフルエンザは、肺炎を併発される方が多いと指摘されています。予防するためには流行する前に予防接種を受けることが有効な方法です。

2. インフルエンザ予防接種の効果と副反応

(1)効果

予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5か月間とされています。より効率的に有効性を高めるためには、毎年インフルエンザが流行する前の12月中旬までに接種を受けておくことが必要です。

(2)副反応

○注射の跡が、赤くなったり、はれたり、痛むことがあります。通常2～3日のうちに消失します。

○熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられることもありますが、通常2～3日中に消失します。

○その他、血管浮腫、筋力低下を発現した報告があります。

(3)重大な副反応

○まれではありますが、ショック、アナフィラキシー様症状(じんましん、呼吸困難、血管浮腫等)が見られることもあります。

ショック、アナフィラキシー様症状は、ワクチンに対するアレルギー反応で接種後、比較的すぐ(接種後30分間以内)にあらわれることがあります。

○その他、ギランバレー症候群・けいれん・急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、脳症、視神経炎、肝機能障害、黄疸・喘息発作があらわれる等の報告があります。

3. 予防接種を受けることができない方(接種不適応者)

①明らかに発熱のある人(37.5℃以上)

②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

③インフルエンザ予防接種に含まれる成分によってアナフィラキシーをおこしたことが明らかな人
「アナフィラキシー」というのは通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗・顔が急にはれる・全身にひどいじんましんが出る・吐き気嘔吐(おうと)・声が出にくい・息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

④その他、医師が不適当な状態と判断した場合(具体的には、医師とご相談ください。)

4. 予防接種前の注意

- ①予診票はよく読み、現在の体調や治療中の病気、アレルギーの有無等について正確に記入してください。
- ②現在、治療を受けている方、薬を飲んでいる方は、予防接種を受けてもよいかどうかをかかりつけ医に必ずご相談ください。

5. 予防接種後の注意

- ①予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- ②副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③入浴は、接種後1時間を経過すれば、差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④接種当日は、激しい運動や飲酒は避けましょう。

6. 健康被害救済制度について

予防接種を受けた人は、病気にかからない・かかりにくい・たとえかかっても軽い症状で済むという大きな効果がありますが、非常にまれに健康被害（脳炎や神経障害などの重い副反応）が生じることもあります。

定期の予防接種を受けて健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

【問い合わせ】 八千代町健康増進課予防係（八千代町保健センター内）
電話0296-48-1955 FAX0296-48-0309
問い合わせ時間 午前8時30分～午後5時（土・日・祝日を除く）